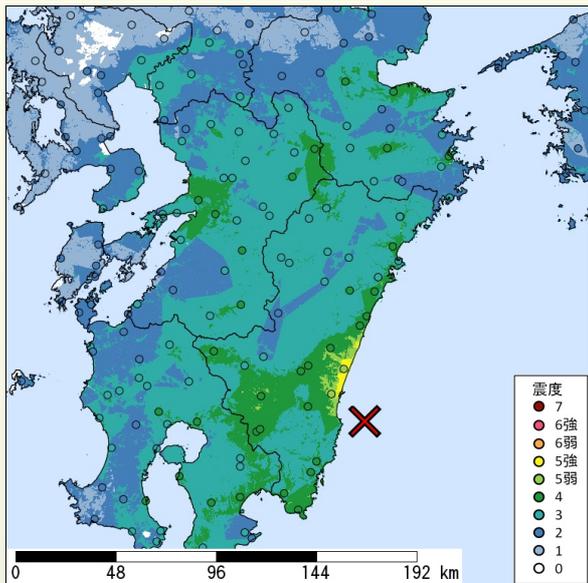


M 6.4, 震源地:日向灘, 深さ約30km, 2025/01/13 21:19頃発生 (気象庁発表)

震度の分布 最大観測震度5弱(*) 主要都市の推定震度 (都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)

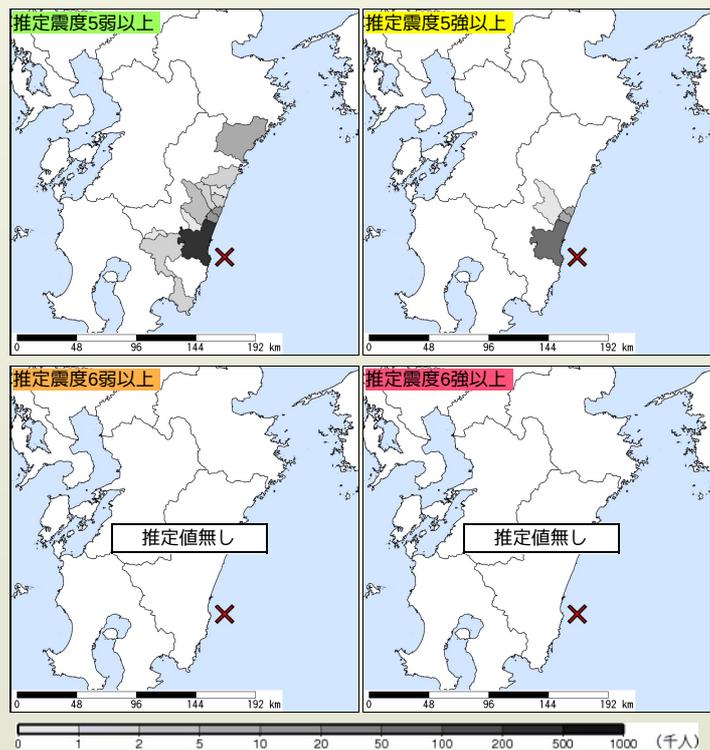


最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布 1 2 3 4 5+6-6+ 7	市区町村名	全人口: 夜間 (人)	震央距離 (km)
5弱	[Bar chart]	宮崎県宮崎市	400,000	20
4	[Bar chart]	宮崎県日南市	54,000	30
4	[Bar chart]	宮崎県都城市	160,000	51
4	[Bar chart]	宮崎県延岡市	130,000	87
4	[Bar chart]	熊本県宇城市	60,000	127
4	[Bar chart]	熊本県八代市	130,000	122
4	[Bar chart]	鹿児島県霧島市	130,000	79
4	[Bar chart]	鹿児島県始良市	75,000	92
4	[Bar chart]	大分県大分市	480,000	160
4	[Bar chart]	宮崎県日向市	62,000	69
4	[Bar chart]	大分県佐伯市	72,000	132
4	[Bar chart]	鹿児島県鹿児島市	600,000	101
4	[Bar chart]	鹿児島県鹿屋市	100,000	84
3	[Bar chart]	福岡県柳川市	67,000	188
3	[Bar chart]	鹿児島県薩摩川内市	96,000	122
3	[Bar chart]	熊本県熊本市東区	190,000	134
3	[Bar chart]	熊本県山鹿市	52,000	159
3	[Bar chart]	福岡県久留米市	300,000	197
3	[Bar chart]	佐賀県佐賀市	240,000	203
3	[Bar chart]	島根県出雲市	170,000	410

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

解析開始時点(2025/01/13 21:24:08)で収集されている防災科研K-NET、KIK-net、気象庁、地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



行政区名	震度5弱以上 遭遇人口	震度5強以上 遭遇人口	震度6弱以上 遭遇人口	震度6強以上 遭遇人口
全国	200,000	50,000		
宮崎県	200,000	50,000		
宮崎県宮崎市	200,000	50,000		
宮崎県都城市	2,000			
宮崎県延岡市	10,000			
宮崎県日向市	2,000			
宮崎県串間市	1,000			
宮崎県西都市	5,000	1,000未満		
宮崎県西諸県郡高原町	1,000未満			
宮崎県東諸県郡国富町	1,000			
宮崎県児湯郡高鍋町	20,000	5,000		
宮崎県児湯郡新富町	10,000	5,000		
宮崎県児湯郡木城町	2,000			
宮崎県児湯郡川南町	2,000			
宮崎県児湯郡都農町	1,000未満			

全国および震度遭遇人口の多い都道府県と市区町村について掲載。震度遭遇人口が1~999人の場合は1000未満と表示。全国、都道府県の値は、市区町村の値の合計と必ずしも一致しない。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生前	地震名	M	被害
1899	(03h 43m)宮崎県沖	7.1	宮崎・大分で家屋が小破し、土蔵が倒壊した。大分では2回目の方が強かった。
1909	宮崎県西部	7.6	宮崎市付近で被害が大きく、宮崎・大分・鹿児島・高知・岡山・広島・熊本の各県に被害があった。家屋全壊4。大きなや深発地震で、深さ約150km。従来、日向灘とされていたもの。
1914	鹿児島県中部(桜島地震)	7.1	桜島の噴火で発生した地震。鹿児島市で住家全倒39、死13、鹿児島郡で死22余。小津波があった。
1931	日向灘	7.1	宮崎県で家屋全壊4、死1。鹿児島県で家屋全壊1。室戸で津波85cm。
1939	日向灘	6.5	大分県沿岸で小被害、宮崎県で死1。小津波があった。
1941	日向灘	7.2	大分・宮崎・熊本の各県で被害があり、死2、家屋全壊27。九州東岸・四国西岸に津波があり、波高は最大1m。
1961	日向灘	7.0	宮崎・鹿児島両県で死2、建物全壊3。九州から中部の沿岸に津波、波高は最高50cm。
1968	鹿児島県薩摩地方(えびの地震)	6.1	2時間ほど前にM5.7の前震、翌日にM5.6の余震があった。死3、傷42、住家全壊368、半壊636。山崩れが多かった。3月25日にもM5.7とM5.4の地震があり、住家全壊18、半壊147。
1968	日向灘(1968年日向灘地震)	7.5	高知・愛媛で被害多く、死1、傷15、住家全壊1、半壊2、道路損壊18など。小津波があった。
1987	日向灘	6.6	死1、傷6のほか、建物・道路などに被害があった。

出典：国立天文台編「理科年表 平成29年」、丸善出版(2016)、一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

